



海に出かけると、Tattoo(入れ墨)を入れていないダイバーを見かけないくらい誰もが何かしらのTattooを入れているのが当たり前の時代だ。老若男女問わず、気軽にTattooをファッションとして楽しんでいる。取材で一緒になった西表のサカナさんは、50歳の記念に、背中に自分でデザインしたマンタのTattooを入れたそう。かっこいいけど、それ以上に「若いな～」と感心してしまった。中には、「え、この人がTattoo?」と思うような、正直まったく似合わない真面目そうな雰囲気の人がしていたりすると、ちょっと嬉しくなる。僕はそんな存在のアンバランスさに興味を引かれるらしく、そういう人を見かけると、「何故あなたみたいな人がTattooを入れたのか?」と根掘り葉掘り聞きたくなってしまふ。

日本人の間で一番多いのは、男女問わず、やはりイルカのTattooだろうか。まあ、無難な路線だ。欧米人の中でもイルカやサメなどの海の生物は人気だが、結構多く見かけるのは「漢字」。しかし誰に決めてもらうのかわからないが、母国語の意味と漢字の意味を合わせるために、無理矢理妙な漢字を使っていたり、あるいは意味がまったく間違っていたりする事もある。

バハマのドルフィンクルーズのクルーをしていたアメリカ人の若者が「Ocean Masterって入れて欲しいって頼んだんだ」と自慢気にお気に入りのTattooを見せてくれた。「海達人」。日本人からすると微妙だが、まあ悪くは無い。周囲からの評判は上々らしく、「彼女にもCoral Angelって入れてもらうんだ」と話していたので、どんな漢字を使うのかと聞いたら「珊瑚天使」だという。

Ocean Master

写真/文 越智 隆治

こっちはかなり微妙だ。そんな話をしていると別のクルーが「なら、俺はOcean Slaveって入れてもらおうかな」、「じゃあ、私はOcean Loverにするわ」と言い出した。直訳すれば「海奴隷」に「海恋人」。はっきり止めた方が良くと忠告しておいた。

以前、マイアミで出会った男性は、若い頃、腕に「Revenge(復讐)」の意味で入れたTattooを見せながら、「あの頃はかっこいいと思っていたんだけど、この年になるとちょっと恥ずかしい」と言って笑っていた。彼の腕には大きく「復讐」と彫られていたのだが、どうやらまだその意味を知らなかったらしい。不良ぶって彫ったはずなのに、「僕は良い子です」とTattooで表現しているようなものだ。

今は恥ずかしいって言うけど、これじゃあ、若い頃からずっと恥ずかしいよ。

でも、長年意味を知らずにいて、しかも今、若かりし

頃の行為を恥じている上に、「これ、意味が違いますよ」と追い討ちをかける事もできず、「べ、勉強熱心だったんですね」と作り笑いをして別れたのだが、本当は「どうせなら反対の腕に「予習」って入れて欲しい」と思ったのは、言うまでもない。



People
Photo Column by the Sea 04